

令和3年度 ちぐさこども園 自己評価報告書

1. ちぐさこども園の教育目標

- 「意欲」 …… 面白いことや楽しいことを十分にする体験を通して、
「○○したい」につながるエネルギーを心身ともに培う
- 「感性」 …… 様々な体験を通して、感じる心・表現する喜びを味わい、同時に知的な感覚を磨く
- 「思いやり」 …… 他者と共にする生活や遊びを通して、友だちと過ごす楽しさや難しさを味わいながら、
他者のことを慮る心や態度を培う。

2. 本年度の重点取組み事項 スローガン 『感じる』

- ① 子どもの主体性がより活きるための保育課程(実践)の見直し
- ② ICTを活用した保護者等との保育情報(子どもの育ち)の共有

3. 重点的な取組みへの評価

項目	取組み内容	評価
① 保育課程の見直し(実践)	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者主導の一斉活動の時間を減らし、一人一人の興味関心を充足する時間を増やし、その関心から保育を組み立てる取り組みを実施(主に3歳以上) ・新たな素材や玩具を取り入れ、物との対話の充実を図る。(主に3歳未満) 	B + <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的、主体的な子どもの姿が増えた。 ・散発的、局所的になりやすい個々の子どもの遊びの援助(展開、共有)が難しかった。 ・既存の保育課程文書への実践の反映はこれから。
② ICTの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・新システムを導入し、保育関連情報を一元化。 ・ドキュメンテーションの電子化により、保育プロセスの保護者への発信を容易化。 	A <ul style="list-style-type: none"> ・コロナによる緊急的事態にも迅速に対応でき、健康情報等の共有がスムーズに図れた。 ・ドキュメンテーションの発信機会が増えた。

4. ちぐさこども園運営の総合的な評価(重点事項以外も含む)

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・「感じる」をテーマに、子ども一人一人の興味関心(主体性)から保育を組み立てる、保育の基本に立ち返って、従来の保育実践の抜本的な見直しに全園的にチャレンジした。 → 子どもの意欲的姿が増え、保育者間で良さを共有できた。 ・同時に、新システムの導入により、業務全般を見直して、効率化・園内園外との共有化を大幅に促進できた。

5. 今後の課題

- ・育ちの連続性(中長期的視点=保育課程)に基づく、保育者の意図性の明確化と具体化。
子ども主体≠子ども任せ
- ・保護者への発信内容の精査と双方向性の向上(=やりとりを増やす)。